

6. 親子のコミュニケーション編③<子どもを知る>

③ 抱っこで感じる子どもの成長

<<ねらい>>

○子育ては親子と一緒に成長するものであるため、なかなか子どもの成長を客観的に感じられない。そこで子どもの身体の成長を実感することで、子育てをふりかえる。

<<準備物>>

- ファシリテータ：ワークシート、3kg、14kgのおもり（小中学校課にお問合せください。）
- 参加者：筆記用具

	時間	主な活動	発言	留意点
導入 (10)		1. 学習のねらい 今日は、お子さんが生まれた時の体重と同程度のおもりを用意しました。現在のお子さんの体重や重さを思い浮かべながら、その成長についてふりかえてみましょう。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。		
		2. アイスブレイク ・グループ分け ・自己紹介 ・乳幼児（出生児・三歳児）の標準体重を体感	2. 三歳児の標準体重（14kg）を体感してみましょう。 出生児の標準体重（3kg）を体感してみましょう	・14kg から体感してもらう。
		3. ルールとマナーの確認	P. 6 参照	
展開 (35)	7	4. ワークシートに記入する。 ・我が子の誕生時の体重とその時の気持ち (ワーク1)	4. 我が子の誕生時の体重と、生まれた赤ちゃんを抱っこした時の気持ちを思いだして、 <b>ワーク1</b> に書いてみましょう。	・準備できるおもりの数でかかる時間かわる。手間はかかる。
	13	5. みんなで体験して、感想をシートに記入する。 (ワーク2)	5. 我が子の誕生時の体重に近いおもりをもってみましょう。今の我が子の体重と比べて子どもの成長について感じることを <b>ワーク2</b> にまとめてみましょう。	・十分な時間を確保しようとするれば、おもりをグループ分準備する必要が出てくる。
	15	6. グループで紹介し合う。	6. ワークシートに記入した内容を、皆さんで紹介し合ひましょう。	
まとめ (15)	5	7. ふりかえり	7. このワークをふりかえて、気づいたことや感じたことをワークにまとめてみましょう。	
	10	8. まとめ いかがだったでしょうか。体重の変化によって我が子の成長を確認していただきました。しかし、伸び盛りの子どもは、身体の成長だけではなく、それにともなって心の成長もしています。いろいろな面から子どもの成長を実感していただき、我が子と「私」の両方を褒めてあげてください。		

### ③ 抱っこで感じる子どもの成長

日々の生活に追われていると、一緒に過ごしている子どもの成長をしみじみと感じる心の余裕がなかなかもてませんね。今日は、お子さんの身体の成長を実感するために、お子さんが生まれた時の体重と同程度のおもりを用意しました。それを抱いていただき、今のお子さんを抱っこしている時との違いをしっかりと感じてください。

これまでの子育てをふりかえて、今になって思うこと、これからどのように子どもと接していきたいか、など、過去・現在・未来をつないでみてください。

#### ワーク1

**我が子の誕生時の体重を記入してください。  
生まれた我が子を最初に抱っこした時の気持ちを思い出しましょう。**

誕生時の体重は？ (                      ) g

最初に抱っこした時にどう感じましたか？



#### ワーク2

**誕生時の体重を体感してみて感じたことを書いてください。今の子どもの顔を思い浮かべ、子どもの成長について感じることを自由に書いてみましょう。**

#### ふりかえり

